

データ流通基盤とTDBC動態管理プラットフォーム との連携による新しい世界

2021年7月7日

ソフトバンク株式会社/一般社団法人日本IT団体連盟
東京大学・空間情報科学研究センター
一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会

TDBC Forum 2021

- ソフトバンク株式会社 / (一社) 日本IT団体連盟 谷川さん
「データ連携基盤とは」
- 東京大学・空間情報科学研究センター 柴崎先生
「データプラットフォーム連携が拓 (ひら) くサプライチェーンDX
のネクストステージ」
- 一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会 小島
「動態管理プラットフォーム・伝票電子化とデータ連携基盤との
取り組み」
- デスカッション
「データ連携基盤実現での新しい世界」

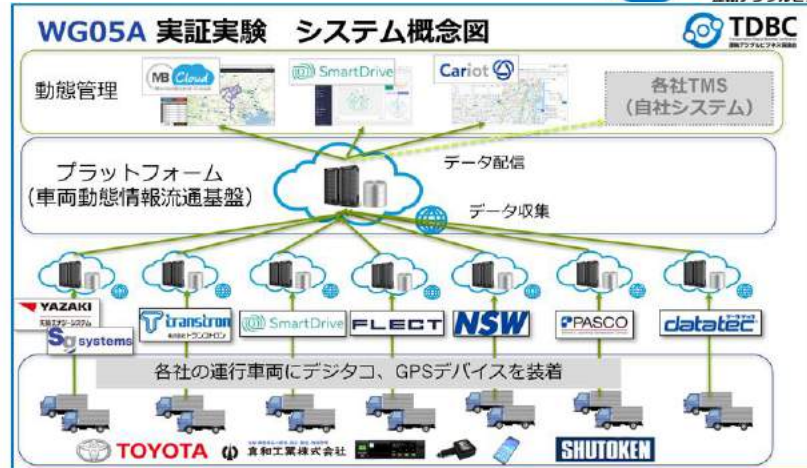
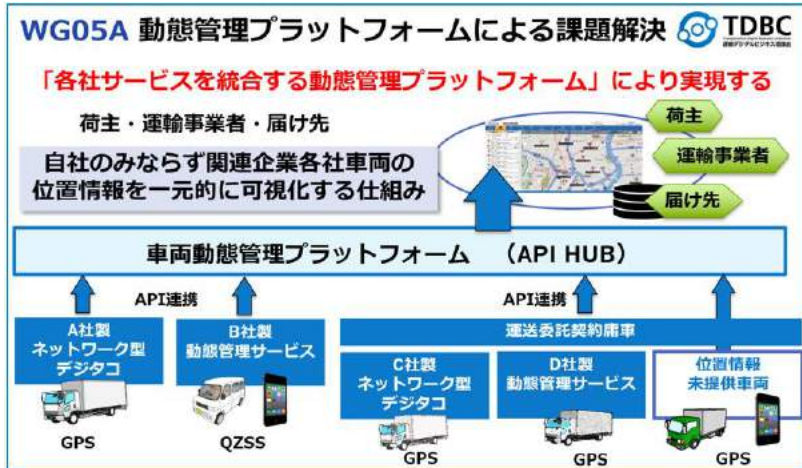
データ流通基盤とTDBC動態管理プラットフォーム との連携による新しい世界

2021年7月7日

一般社団法人 運輸デジタルビジネス協議会
代表理事 小島 薫

TDBC Forum 2021

WG05A 動態管理プラットフォーム



検証結果④ 目的地到着の管理



TDBC

1	積卸貨物車(トランス)C	2020/03/18 08:33:49	積卸車ロスチェック
2	積卸貨物車(トランス)C	2020/03/18 09:23:21	所内に到着しました
3	積卸貨物車(トランス)C	2020/03/18 04:03:16	所内を離れに到着しました
4	積卸貨物車(トランス)C	2020/03/18 01:17:56	所内に到着しました
5	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 05:46:38	積卸車ロスチェック
6	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 08:18:43	次高木ICに到着しました
7	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 09:10:24	徳島野村社に到着しました
8	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 03:29:41	高岡野村社に到着しました
9	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 03:51:11	徳島野村社に到着しました
10	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 02:00:07	所内に到着しました
11	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 02:45:32	所内に到着しました
12	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 02:41:13	所内に到着しました
13	積卸貨物車(フレクト)	2020/03/18 01:54:01	所内に到着しました

検証結果③ 動態管理アプリでの自由なデータ活用

スマートドライブ社 サービス画面
矢崎エナジー社デジタコ搭載車両の情報表示



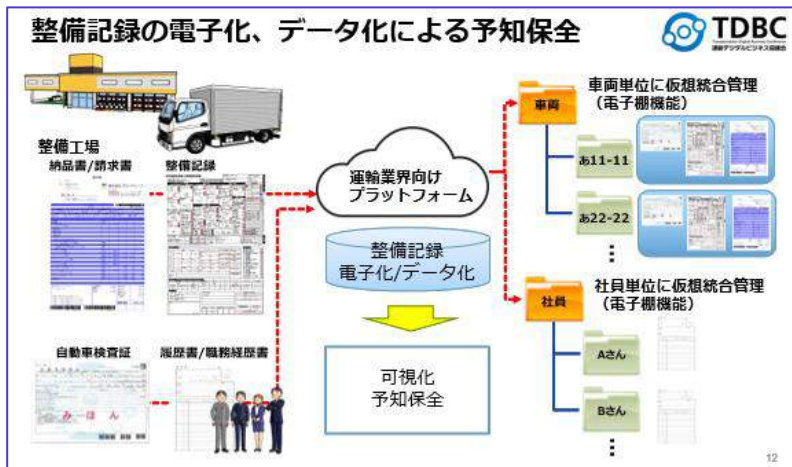
フレクト社 サービス画面
トランスロン社デジタコ搭載車両の情報表示



ウイングアーク1st社 システム画面
パスコ社動態管理サービス搭載車両の情報表示



2018年～伝票電子化の取り組み



運行管理者/バックオフィスでの悩み

- 変化する環境に対し「管理書類の増加」「管理業務の増加」
→ **バックオフィス業務の急激な増加**

運行管理者
「この書類どこだっけ？」

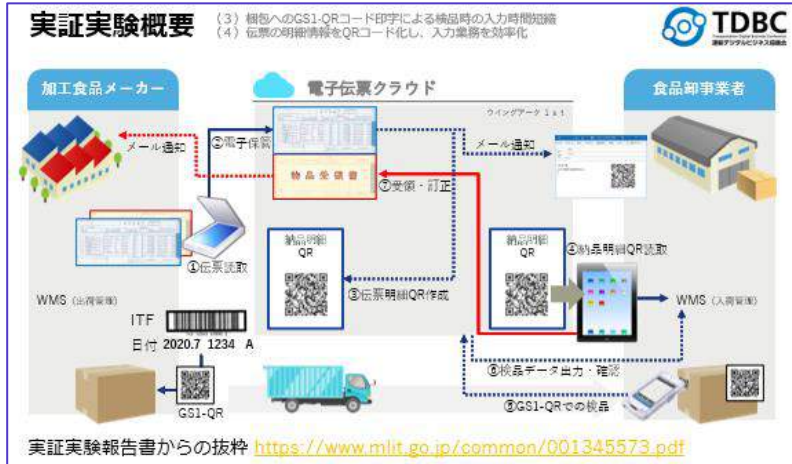
業務従事者
「打っても打っても終わらない!...」



実際の監査風景



【直面する問題点】
帳票の二重入力等があり、書類が属人化しやすい状況



「加工食品物流における生産性向上及びトラックドライバーの労働時間改善に関する懇談会」実証実験への参画

加工食品物流における取引環境と長時間労働の改善に向けた対応

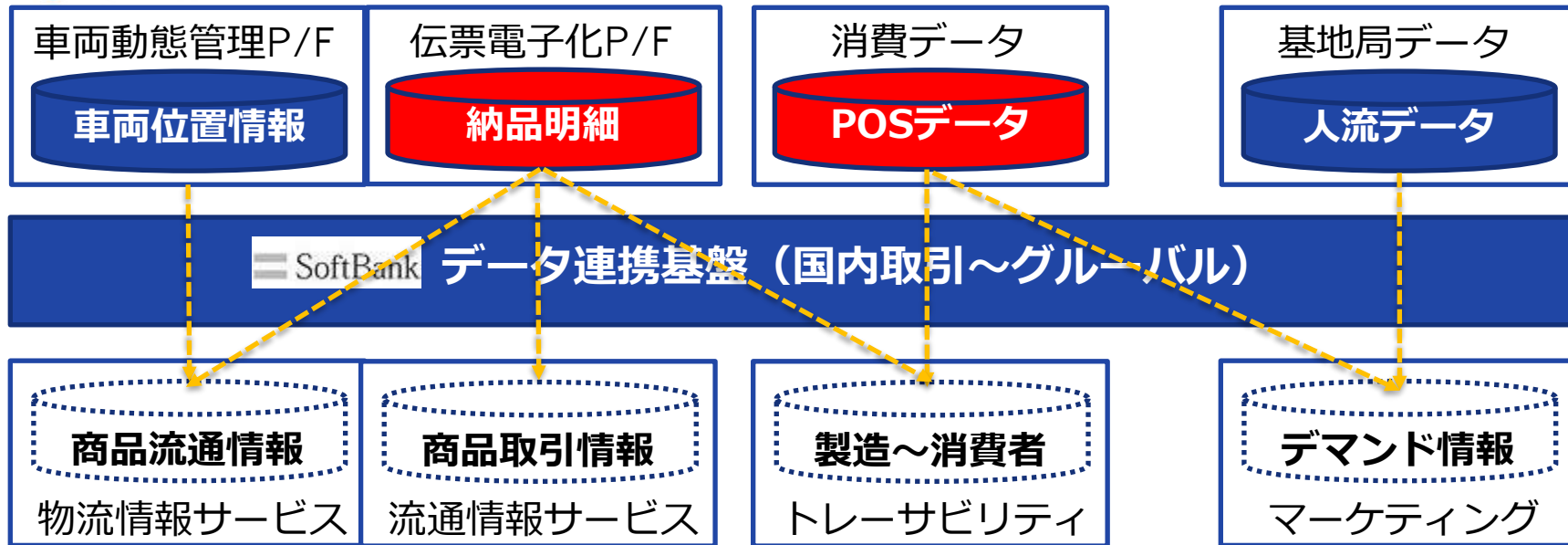
- 加工食品物流における課題の指摘
- 加工食品物流においては、業界固有である1/3ルールや年月日表示された賞味期限表示、統一されていない産地情報の手入力等により、検品に要する時間が長くなり、トラックドライバーの労働時間が長くなる要因となっている。
- また、卸業者や業者等、プラットフォーム上で扱われている商品も多く、プラットフォーム上で扱っていないサイズや規格・ボールサイズが様々であり、手振み・手押し等で長時間の検品作業が発生し、トラックドライバーの労働時間が長くなる要因となっている。
- 主な対応策
- 納品期限の縦横や賞味期限の年月表示を共通
- 大手スーパー、コンビニを中心に賛同している状況。異なる卸業者や産地の拡大を図る。

- ◆ QRコードの活用による検品時間の削減
- 紙伝票を電子化してQRコードからクラウド上の電子伝票を読み込み形式にするとともに、荷の外装にもQRコードを貼り付け、倉庫での検品時間を削減する実証実験を実施。(800箱の運送で約40分の検品時間を削減するとともに、紙伝票の取扱いに係る年間約1,500万円のコスト削減効果)

(https://www.mlit.go.jp/press/press_kokai02_1h_00000200.html)を参照。

- 今後の取組の方向性
- 事前出荷情報の提供と伝票情報の電子化等を組み合わせるなど、検品プロセスの実現に向けた取組を推進。
 - 物流標準化アクションプランに沿った外装サイズや表示等の標準化を推進し、荷役時間の削減を図る。

データ連携基盤との協創イメージ



協議会スポンサー



一般社団法人 運輸デジタルビジネス協議会

<https://unyu.co/>
unyu.co@wingarc.com
TEL 03-5962-7370

